

千葉市基本計画（原案）分野別計画に対する委員からのご意見
（「子ども・教育」、「文化・スポーツ」）

No.	分野	政策	施策	頁	意見及び対案	委員
1	子ども・教育	1	2	29	令和3年1月付「公立保育所の施設管理に関する基本方針」において、公立保育所の建て替え・民営化・統廃合が示されたが、民間保育園は、昭和51年開設のチューリップ保育園が平成25年度に改築されて以降、改修等が行われていない。昭和51年度以降に開設された保育園でも、老朽化や雨漏り、それに伴う漏電など度重なる補修が必要であるため、民間保育園の建て替えを再開していただきたい。	大森委員
2	子ども・教育	1	2	29	平成27年度の子ども子育て支援新制度以降、千葉市においても施設数が急激に増えているが、区として受け入れ人数を充足しているのは緑区のみであり、市全体で95.3%の充足率となっている。児童数は、空き人数より入所待ち児童数が上回っているが、全国的な保育士不足や0歳児がいないなどの要因により、市内全342施設のうち、約半数が定員割れとなっている。施設としては、定員割れの状況が続けば経営状況が悪化し、閉園に追い込まれる施設も出てくるのが容易に予想される。万が一閉園になった場合、在園している児童の受け入れ先の調整が必要になると思われる。調整に時間を要する場合も想定されることから、一時預かり保育で受け入れて、その後の入園先を探していくうえでも、上記の公立保育所民営化や統廃合で残す公立保育所のうちのいくつかを、子育て支援センターと一時預かり保育に特化した保育所にしてはどうか。	大森委員
3	子ども・教育	1	2	29	上記に関連して、定員の弾力化（定員減）などの定員割れ対策や、閉園が生じた際の具体的な対応策について、協議を始めていただきたい。	大森委員
4	子ども・教育	1	3	30	「困難な状況にある子供や家庭への支援の充実」の中に、外国人児童とその家庭が含まれていないのはなぜか。 【理由】 施策3における支援の対象は、「外国人児童など」と児童が中心となっているが、外国人児童の家庭への支援が今後重要（人口施策上も）になると思われる。 施策5では国際交流活動が指摘されているが、外国人児童の家庭は支援の対象であると同時に、国際理解や国際交流活動を通じた教育効果の向上にとっては重要なリソースにもなり得る。	菊地委員
5	子ども・教育	2		31	子どもの一般的な定義は18歳までだと思うが、千葉市が有する2つの市立高校に関連する施策がなくてもよいのか。	菊地委員
6	文化・スポーツ	1	1	41	都市を彩りイメージづけるアメニティとしてのパブリックアートについての言及（最後の文化・芸術とまちづくりの連携が関連していると思うが）が必要はないか。	菊地委員

千葉市基本計画（原案）分野別計画に対する委員からのご意見
（「子ども・教育」、「文化・スポーツ」）

No.	分野	政策	施策	頁	意見及び対案	委員
7	文化・スポーツ	1	1	41	芸術分野を地域の中長期的な戦略と重ね合わせるには、文化・芸術を独立した項目として捉えるよりも、他の政策との横断的なつながりを持ち、それぞれの分野（例えば学校教育）との連携を模索していくことが重要ではないか。	林委員
8	文化・スポーツ	1	1	41	アーティストの育成・支援を設定した時に、具体的にどのような状態を作り出すことがその育成や支援につながるのか、国内外のケースを調べつつ、千葉市の独自性を作り出して欲しい。 滞在環境一つとっても、アーティストの制作や調査に必要な人的又は機材などの環境面でのサポートを盛り込むのかによっても大きく変わってくる。どのようなアーティストの育成にどのような機会をつくるのかを全体感を持って考える必要がある。	林委員
9	文化・スポーツ	1	1	41	アーティストがアウトプットするものへの評価だけでなく、アウトプットを創りだすための思考プロセスや調査方法を様々な領域に活かすことで、これまで活用されてこなかった資源の発見や人々の才能を開花させることが可能になる。 そうしたアーティストをコミュニティの中でどのように受け入れていくか、どんなアーティストを受け入れるかを検証できる委員会のようなものが必要ではないか。	林委員